

# 会津坂下町片門地区

## 1 想定するモデルとしての姿、モデルとする事項

- 地域の量販店と協力し「会津産ウイスキー」の製造に向け、原料となる醸造用大麦の栽培に取り組み、原料の安定供給と地域の担い手となる経営体の所得を確保する



## 2 生産概要（中心的な担い手の概要）

- 【作付面積】R3：水稲40ha、そば25ha→R6：水稲45ha、そば25ha、大麦2.1ha
- 地域の担い手として水稲、そばを中心に経営、規模拡大と地域雇用の創出を実現。
- そばの製粉・製麺・販売など6次化への取組、イベント開催、ドローンなど新技術の導入にも積極的で、地域を牽引する中心的な経営体である。



## 3 取組のポイント（モデルとして構築する取組）

### <需要に応じた生産の取組>

- 実需者が求める大麦品種「小春二条」を作付けし、新技術の導入で安定生産と品質の確保を実現し、原料の安定供給と担い手の所得確保を実現する。
- 地元産ウイスキーの製造工場はR6年度に完成、現在試作を行っている。

【出穂期の小春二条大麦】

### <導入した営農技術、農業機械の内容>

- ドローンの導入による追肥・薬剤散布の省力化。
- 選別機の適正な調整と地元CEの色彩選別機利用による品質向上。
- 基肥の鶏糞活用による肥料のコスト削減。
- 適切な施肥設計、雑草対策、播種量の適正化による反収の向上。



## 4 取組成果

### <大麦生産の安定化>

- 適切な施肥設計と雑草対策により地域の麦類平均（小麦）を上回る反収を実現した（R5）（実収288kg/10a（地域の小麦平均反収150kg/10a））。
- 選別機の調製試験により夾雑物混入を実需者基準0.04%以下を達成した（R5）
- 色彩選別機の利用により、品質の高位安定を実現した（R6）。
- そば収穫作業後の遅い播種（10月下旬頃）でも、越冬前の生育量を確保するため、播種増量による収量増を実証（R6）。（実収：321kg/10a（播種量6kg/10a）→403kg/10a（播種量10kg/10a））

【収穫期の小春二条大麦】



【選別機の調製試験】



### <安定した所得の確保>

- 契約数量全量出荷し、水稲並みの収益を確保した。

## 5 課題（7年度のポイント）

- 片門地区の大麦栽培は、冬期間の気象条件（積雪量の多少など）により収量が左右されやすいことから、さらなる収量の安定化を目指し、試験ほを設置して追肥時期・追肥回数を検討する。